



さ さ づ か

〈教育目標〉

- 互いの違いを認め 高め合う子
- 主体的に学び 創造する子
- 心身をきたえ たくましい子

令和3年2月25日発行

Tel 3377-2345 Fax 3377-2466 HP <https://shibuya.schoolweb.ne.jp/sasashoe> 校長 荒木 憲秀

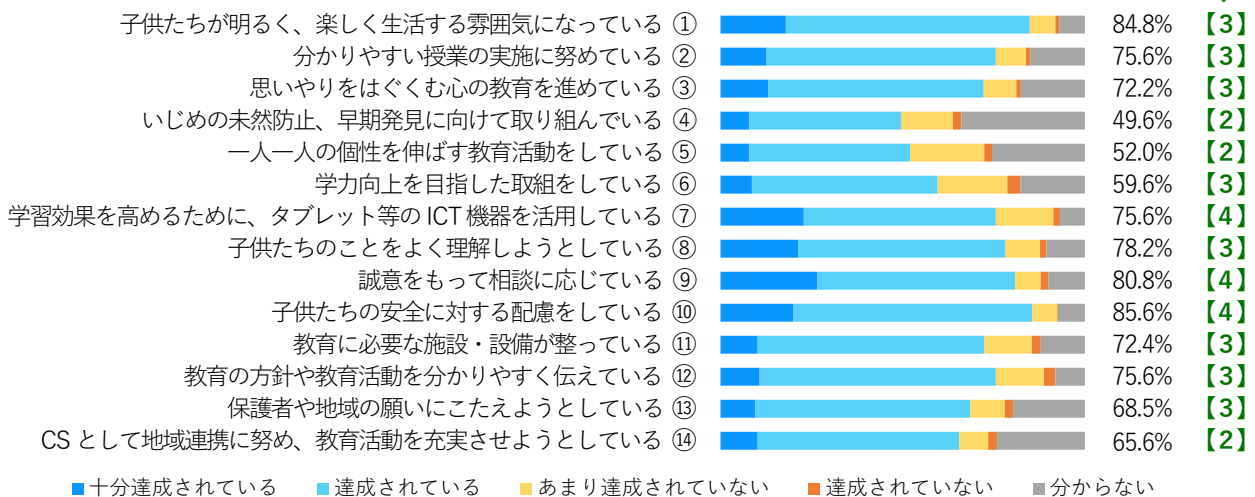
令和2年度 学校評価について

昨年末に保護者の皆様および児童・教職員を対象にとったアンケート調査の結果をもとに、学校としての自己評価をまとめ、学校運営協議会委員による学校関係者評価を行いました。(第1回：1月18日、第2回：2月25日)今年度は感染症対策のため教育活動を実際に目にする機会がほとんどなかったこともあり、昨年度に比べ「分からない」という回答が多かったように思います。また、今年度より Home & School(保護者連携アプリ)を利用した回答となりました。そのため単純に昨年度との比較はできませんが、数値の低い項目に関しては課題として真摯に受け止め、次年度へ向けて改善に努めてまいりたいと思います。グラフ右側の割合(%)は肯定的な回答の合計を、さらに右の【 】内の数値は学校の自己評価(達成状況)を表します。達成状況は、「4：十分達成できた、3：おおむね達成できた、2：あまり達成できなかった、1：全く達成できなかった」の4段階で評価しています。

保護者アンケートの結果

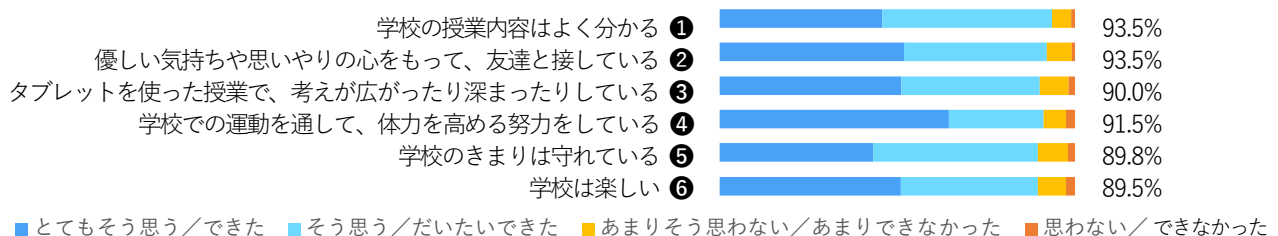
令和2年11月実施 対象 本校保護者482名 回答数381名(回答率79.0%)

自己評価
(達成状況)



児童アンケートの結果

令和2年12月実施 対象 本校児童481名 回答数459名(回答率95.4%)



アンケートの結果をもとに、それぞれの評価項目ごとに、学校の自己評価及び学校関係者評価委員会(以下、「評価委員会」と表記します)の場でいただいたご意見等も踏まえながら、今後の改善の方向性について詳しくお伝えしてまいります。

学校が明るく楽しく生活できる雰囲気になっているか、という項目①では、約85%の保護者の皆様から肯定的な回答をいただきました。児童アンケート⑥でも、約9割の児童が肯定的な回答をしています。評価

委員会では、「コロナ禍にあって制約の多い一年ではあったが、学校の雰囲気はよく児童も楽しそうに過ごしている様子が見て取れる」との評価をいただきましたが、否定的な回答をしている児童が1割程度いることを重く受け止め、学校としての自己評価は3としました。今後も制約が必要となる状況は続くことが予想されますが、感染防止の対策を講じた上で可能な限りの学校行事や日々の学習活動の充実を図り、児童にとって「楽しい」と思える学校生活が送れるよう、教育活動を工夫してまいりたいと思います。

児童にとって「学校が楽しい」と感じられるためには、日々の授業の充実が欠かせません。今年度、本校は国語科を中心に新学習指導要領に示されている「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に取り組んでまいりました。児童アンケートの結果①からは、9割以上の児童が肯定的な回答をしていますが、保護者アンケートの結果②および⑥をみると、十分に達成できているとは言えない現状が見えてきます。これまでの研究で学んだ成果と課題を生かしながら教師一人一人の授業力の向上に努め、今後も児童にとってより「できるようになる・分かるようになる」授業を目指し、日々研さんに努めてまいります。

続いて、心の教育の充実についての項目です。児童アンケートの結果②はかなり高い肯定率を示していますが、保護者アンケートの結果③および④からは、学校の取組に対して十分な成果を感じられていないことが分かります。評価委員会でも、「コロナ禍においては、これまで以上に心のつながりの充実が求められている。引き続き道徳教育を中心とした心の教育の充実を図ってほしい。」という意見が出されました。次年度は今年度以上に、道徳推進教師を中心とした道徳教育のより一層の充実や、特別活動における児童相互の豊かな関わり合いの充実を図ってまいります。いじめ防止の取組については、年3回の児童へのアンケート調査をもとに対策委員会を立ち上げ、早期解決に努めてまいりました。またその結果や進捗状況につきましても学校運営協議会にて報告してまいりました。しかしながら、そういった学校の取組が保護者の皆様には十分に伝わっていないこともうかがえます。個人情報には十分配慮しつつ、可能な範囲でアンケートの結果やそれに対する学校の取組について情報を公開していくことも必要だと感じました。

次に保護者アンケートの結果⑤、児童一人一人の個性を伸ばす教育についてです。こちらは昨年度も肯定率が低かった項目でした。昨年度の評価を受け、学校としては2点の改善に努めてまいりました。

まずは特別な配慮を必要とする児童への支援体制についての取組です。特別支援教育コーディネーターや特別支援教室専門員を中心に、巡回指導教員やスクールカウンセラー、巡回心理士等との連携を強化し、校内の支援体制の拡充を図ってまいりました。しかし一方で、インクルーシブ教育の推進という意味では十分な取組ができたとは言えないように思います。次年度は、校内の研修体制を充実させ、各学級における違いを認め合う風土のさらなる醸成を図ってまいりたいと思います。

もう一点は、習熟度の個人差に応じた学習支援についてです。今年度、算数科や理科において担任+αの人材を活用した学習支援体制を活用した学習指導の充実を図ってまいりました。また、放課後学習クラブ（まなび〜）や学習支援員による個別学習支援を行ってまいりました。一部で効果が見られたものの、まだまだ改善すべき点があることも事実です。今後、タブレット端末を使った個別の学習支援も含め、より一層の工夫をしてまいります。

保護者アンケートの結果⑦および児童アンケートの結果③、タブレットの活用に関する項目です。休校中のオンライン学習をはじめ、9月からの新基盤導入においても、学校としてはタブレットの活用については教職員一同かなり力を入れてきました。授業を参観した評価委員会の委員からも、「昨年度に比べ活用状況に発展が見られ、成果が感じられる」というご意見もいただきました。日常的な活用は確実に図られていますが、より効果的な活用という点においては、まだまだこれからだと感じています。タブレットの活用は、あくまでも目的ではなく手段です。児童に身に付けさせたい力は何かをよく考え、より効果的な活用を図ってまいります。また次年度は、本校は児童用デジタル教科書の導入モデル校に指定されています。こちらの活用についても積極的に新たな取組にチャレンジしていきたいと思えます。

保護者アンケートの結果⑧および⑨は、教職員についての項目です。まず児童理解については、学校の様子を参観した委員からは「授業でも授業外でも、個々の児童への対応がしっかり行われていることが伝わっ

てきた」というご意見をいただきました。また、誠意をもって相談に応じているか、という項目につきましては、「(分からないという回答を除いた) 肯定的な回答の割合も高く、自由意見からも教職員への感謝の言葉が多く見られることから、自己評価を上げてよいのではないか。」というご意見をいただき、自己評価を「3」から「4」に修正いたしました。コロナ禍にあって、なかなか保護者の皆様と顔を合わせる機会が取りにくい状況ではありますが、今後ともこまめな情報共有や意思疎通を図り、ともに子供たちを見守り育てていく、という姿勢を大事にしていきたいと思います。

保護者アンケートの結果⑩、⑪は、学校安全および教育環境に関する項目です。学校における教育活動は、安全が最優先です。児童アンケートの結果⑤からも、ある程度の意識はできていることがうかがえますし、教職員にも日々高い意識をもって取り組むよう指導していますが、安全指導に関しては「ここまでやれば十分」というものではありません。日常の安全指導や安全点検を確実にを行い、教職員だけでなく児童自身の、危険を予測し回避できる力を育ててまいりたいと思います。

本紙には掲載していませんが、学校の施設・設備に関する項目は、実は教職員の肯定率が非常に低い項目でした。評価委員からは、「施設・設備に関しては、教職員の視点からも内容を精査し、改善を図っていく必要があるのではないか。」というご意見をいただきました。限られた教育予算を有効に活用し、計画的な施設・設備の充実を図ってまいりたいと思います。

続いては、家庭・地域との連携に関する項目です。保護者アンケートの結果⑪および⑫からは、保護者の皆さまの思いに十分に伝えられていないことがわかります。評価委員からも、「コロナ禍で学校に足を運ぶ機会が激減し、保護者が不安に思っていることは間違いない。学校が ICT も活用しながら情報発信の仕方を工夫していることは評価できるが、そういった保護者の不安に寄り添い、丁寧な情報発信を心掛けてもらいたい。」という意見が出されました。また、ホームページや保護者連絡アプリ、児童タブレットを使った情報発信の仕方については、「受け手への伝わり方を見ながら、情報の質的・量的な改善を図っていく必要がある」「デジタルと紙媒体、両方の特質を踏まえたバランスを考えていく必要がある」といったご意見もいただきました。いただいたご意見を、今後の改善につなげてまいりたいと思います。

アンケート項目⑬、コミュニティスクールとしての地域連携については、非常に厳しい結果をいただきました。今年度は、地域に出て学習する機会が非常に少なかったことは事実です。しかしこの状況がしばらく続くことは間違いありません。この状況においても、どのような教育活動なら実施できるのか、模索を続けてまいりたいと思います。次年度は、学校運営協議会の開催回数を増やし、協議内容をより充実させていく予定です。また地域学校協働本部の設置に向けても協議していく予定です。今後とも、地域と一体となって子供たちを育てていく、「地域の学校」として創意工夫を続けてまいります。

最後に、自由記述欄にいただいた主なご意見に対する回答を記載させていただきます。個々のご要望や思いに十分に答えきれていない部分もありますが、今後も学校運営協議会を中心として、保護者や地域の皆様と協力しながら、よりよい教育活動の推進を目指し努力してまいります。

教育活動と子供の様子

- コロナ禍における難しさは理解できるが、子供のために学校行事を実施してほしい。
 - ➔ 感染防止対策を講じた上で、可能な限り実施できる方法を検討していきます。保護者の参観についても、直接の参観は難しくても何らかの形で伝えられるよう、工夫していきます。
- 学校公開を実施してほしい。
 - ➔ 社会の感染状況を注視しつつ、時間や人数を制限しながらにはなるとは思いますが、実施の方法を検討してまいります。
- タブレットの効果は理解できるが、使い方や利用できるアプリ・サイトなど制限も必要。
 - ➔ 機能や使用時間の制限については、ひとつずつ課題を見付け改善してまいります。また併せて、情報モラル教育や節度ある使い方についても指導してまいります。家庭での使用に関してはご家庭の協力が欠かせませんので、共通理解を図りながらともに指導に当たってまいりたいと思います。

- 主要教科では少人数指導をどんどん取り入れてほしい。
 - ➔ 都の施策（人的配置）をより効果的に活用できるよう、また今後、高学年の教科担任制導入等も含め、より質の高い教育活動が実施できるよう、努めてまいります。
- 学校に対して一番気になるのはいじめ対応。（なかったかのような対応をする事例が後を絶たない。）
 - ➔ 児童への調査をもとに、組織対応を心掛けています。また、小さな事案でも必ず教育委員会に報告して指導を受けながら対応しています。今後は、個人情報に配慮しつつ、可能な範囲で学校の対応についても情報を公開していきたいと考えています。
- 学習の進め方や宿題の出し方など、学年で統一されていないのが気になる。
 - ➔ 各学級担任の思いや個性、能力を生かすことは大事ですが、学年で統一すべきことも多くあります。学年間でしっかりと協議し、連携しながら共通理解のもと指導するようにいたします。

教職員

- 個人面談で、担任が児童のことを十分把握できていない様子が見られた。休校の影響があるのなら、時期を遅らせてもよかったのでは。
 - ➔ 今後このようなことがないよう、校内での研修を充実させ、教員間の連携や情報共有をさらに深めて児童一人一人の理解に努め、教員の指導力向上に努めてまいります。

教育環境整備

- 子供の体格に合った机や椅子を用意してほしい。
 - ➔ 児童の身体の発達に応じた机・椅子を用意するよう、配慮します。
- プールを屋内に改修できれば、天候や季節に関係なく実施できるのでは。
 - ➔ 学校の要望だけで実現は不可能ですが、次年度も今年度のような状況になった場合は、学年を指定して、近隣校の屋内プールを使用させていただくことも検討する必要はあるかと思います。
- 校庭の人工芝を改修してほしい。転倒時の擦り傷もひどく、服のひざ部分もよく穴が開いている。
 - ➔ こちらも学校の要望だけで実現は難しいのが現状です。部分的な破損等は都度々々区に連絡して補修してもらっていますが、安全指導も含め、できるだけ転倒やけがの防止には努めてまいります。

家庭・地域との連携

- 学校に足を運ぶ機会が減り、学校の様子が見えにくい。動画の配信や連絡ツールを使った情報発信の回数を増やしてほしい。
 - ➔ 可能な限り、情報発信に努めてまいります。しかし一方で、教員の負担が過度に増えることは避けなければならないと考えます。双方のバランスを考え、効果的な発信の仕方を工夫してまいります。
- 欠席連絡等、コロナ禍では現在の連絡帳のやり取りが難しい状況もある。工夫できないか。
 - ➔ 渋谷区は、ICTを活用した連絡手段の実装に向けて検討を始めているようです。学校としてもそのような保護者の声が挙がっていることは区の方にも伝えていきたいと思います。
- デジタル化への移行も理解できるが、紙媒体の文化も必要では。
 - ➔ 双方のメリット・デメリットを考慮し、より効果の高い情報発信に努めてまいりたいと思います。

その他

- ほとんどの設問が学校に行き様子を見ていないと回答できない。再考を。
 - ➔ 調査項目は、一部を除き区全体で共通となっており、学校で内容を変更することができませんが、いただいたご意見については、区教委に伝えていきます。
- (40人学級の) 5年生を3学級にしてほしい。
 - ➔ 現在、給食の時間だけは3学級編成にして対応していますが、日常の授業や学校生活では制度上難しいのが現状です。次年度以降、段階的に35人学級が実現されることが、せめてもの救いです。